

ウンチに“血液”混じったら…

第2 外科部長 阿部 福光

トイレで排便して、紙で拭いた時に少し赤いものがついたり、便器が真っ赤になるくらいの出血があったり、便が赤かったり、赤黒い血の塊が出たり、などの症状がある時には、主に肛門、大腸からの出血が考えられます。普通、便の色は黄土色～茶色ですので、肛門から出血し、便が赤くなるとびっくりし、大腸癌ではないかと心配されると思いますが、出血を起こす疾患で多いのは、内痔核（いぼ痔）、裂肛（切れ痔）などの痔疾患です。他には、大腸憩室、大腸ポリープ、潰瘍性大腸炎、直腸炎、虚血性腸炎などがあり、もちろん大腸癌の場合もあります。もし上記のような出血がみられたら、早目に、かかりつけ医院、消化器科、胃腸科、外科、肛門科のある医院、病院を受診し、相談して下さい。家で様子を見ていて、出血が止まり、症状が無くなることはありますが、医療機関で診察を受けて、指診や肛門鏡、大腸カメラなどの検査を受けることで、どこから出血しているのか判り、病気を診断でき、治療も早目に開始できます。1回の出血量が少なくても、回数が続くと気付かないうちに貧血となることがあります。また、大腸癌が隠れていて、放っておくと、癌の進行を引き起こしてしまいます。肛門出血、血便がみられたら、早目に診察を受け、内視鏡などの検査を受けることが、大事です。

なお、便に血はつかないという方でも、目に見えない出血を起こしていることがあります。ポリープ、癌の早期発見につながりますので、40歳を過ぎたら、大腸癌検診（便潜血検査）は毎年受けるようにして下さい。